

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立西唐津中学校		
1 前年度 評価結果の概要	・生徒の学力向上と、時間を意識して場に応じた言動をとれる生徒の育成が必要である。まず、小中連携の研究指定を活用して「学力向上」のために小中で共通した学習規律の確立を図り、授業においては指導法の研修を深め、教師の指導力及び生徒の学力向上を図っていく。また、家庭学習の充実のために保護者に生徒の実態を把握してもらい、危機感を感じながら家庭の協力を得られるようにする。家庭やPTAと連携の強化を図りながら全ての職員が共通理解のもと、基本的な生活習慣の定着を図るとともに生徒会の取組についてもさらに充実させていく。		
2 学校教育目標	自他の「いのち」を尊び、主体的に学び・行動する生徒の育成 ～基礎・基本の定着を図りながら～		
3 本年度の重点目標	1 学力の向上 2 生徒指導の充実 3 人権意識の高揚 4 働き方改革の推進		

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価	主な担当者
---------------	--------	-------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・職員研修会で、共通理解を図ることができた。マイプランの成果指標を75%の教師がおおむね達成できたが、年度途中での中間チェックのための研修会をもつ必要があった。	B	・引き継ぎ先生方が高い意識と情熱を持ち、具体的な目標を立てて、指導力向上を図ってほしい。	
	○基礎学力の向上に向けた授業実践 ○補充学習（朝学習、Nタイム）の実施	○基礎問題の理解度70%以上 ○朝学習の合格者70%以上	・ポイントが明確な授業づくりをする。 ・朝学習で、英語、数学の基礎問題を徹底して取り組む。その他の教科についてはNタイムで補充する。	B	・各定期考査において、基礎問題の理解度（正解率）74%となり目標を達成できているが、学習状況調査のデータを見ると、表現力を診る問題での正答率が おおむね50%以下にとどまっている。	B	・静かな雰囲気中で、授業や行事が進んでいることは大変うれしい。ぜひ来年度も朝学習、補充学習を実施していただきたい。また小中連携も積極的に進めてほしい。 ・アンケートの「家庭学習をよくしている」が5割程度なので是非、改善してほしい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒70%以上	・TTによる道徳授業を組むことで、生徒のささやきをひろい、思考を深める。 ・生徒が様々な意見を出しやすい雰囲気をつくる。	B	・道徳に関するアンケート(友だちの意見を参考に自分の生活をよりよくしようと考えている)において肯定的な回答をした生徒は69%だったが、話し合い活動の機会が持てなかったのが、この結果の要因の一つと考えられる。 ・各学年でのTTの授業はもちろんなこと、細目に計画を見直しながら、授業を進むことができた。	B	・教室内や学校内のあらゆるところに心の教育につながる掲示物があり、学校における人権教育に対する意識の高さを感じた。コロナ関係の掲示物も素晴らしい。今後も道徳の授業を中心に進めてほしい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていていると回答した教員90%以上	・いじめの覚知・認知時の連絡・連携体制を整える。 ・いじめに気付き力を身に付けるための研修会を年間1回以上開催する。	A	・研修会を再度開き、いじめの定義について確認した。また、いじめ防止対策推進法だけではなく、国家賠償法などいじめを取り巻く法律についても確認が出来た。	A	・いじめは、どの子にも、どの学校にも起こりうることを認識して、今後も早期発見、早期解決に職員一丸となって対応してほしい。	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上 ○朝食を食べる割合90%以上	・食育講演、魚さばき体験等を活用して食への関心を高める。 ・各学級一回は学活の時間に食育指導を行う。	B	・「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合は98%であった。 ・朝食を毎日食べる生徒は72%、ほとんど毎日食べる生徒20%と合わせると92%であった。朝食喫食率は目標に達しているが、食事内容に課題が残る。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策のため、予定していた講演会やお魚教室が中止になったので放送等を利用して関心を高める手だてを工夫した。	B	・食生活は大変重要です。是非、来年度も朝食をしっかりとって、授業や部活動に集中して頑張れるよう、家庭と協力をして取り組んでほしい。 ・おさかな教室や講演会もぜひ実施してほしい。	食育担当 給食担当
	○体位・体力の向上	○新体力テスト結果が前年度比を上回る ○健康に関する講演会の実施	・体力テストの結果をもとに、体育の授業で補強・補充運動を取り入れる。 ・健康への意識が高まるよう工夫する。	C	・新体力テストの項目を3学期に実施したが、敏捷性を中心としたサーキットトレーニングを実施することで、反復横跳びや立幅跳びに2～3ポイント程度ではあるが、多少改善が見られた生徒もいた。来年度も継続していきたい。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策等で、できる種目や運動に制限があったが、そのことが逆に健康への関心の高まりにつながった。 ・講演会等の実施はできなかったが、状況をみながら健康への関心が高まるよう情報を発信していきたい。	B	・部活動の指導は先生方は大変ですが、ご指導お願いします。体力をつけるための内容を授業や部活動の活動の中に入れて体力が少しでも向上するのは。 ・中体連や各種大会での活躍を期待しています。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・定時退勤日の設定。 ・部活動休養日の設定と確実な実施。 ・会議のペーパーレス化、文書等の共有化での会議、事務の効率化を図る。	B	・毎週水曜日に定時退勤日を設定した。しかし年間を通して時間外在校時間の上限を遵守することができなかった。 ・月8回の部活動休養日については、1年間全部活動が完全実施できた。 ・会議のペーパーレス化については実施できた。それにより、後半、会議、事務の効率化をある程度図ることができた。	B	・先生方が元気でないと教育活動は充実しません。働き方改革を積極的に進めてください。	管理職 教務主任 事務主事

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	○自己の目標をもって生き生きと活動できる生徒の育成を目指したキャリア教育の実践	○学校生活に関するアンケートで、学校生活や部活動で目標を持って活動していると回答をした生徒70%以上	・職業講話、進学説明会、体験活動等を計画的に設定する。	C	・今年度からキャリアパスポートを用いて各学期や行事ごとに目標や取り組みの振り返りを実施してきた。 ・学校アンケート「学校生活や部活動に目標をもって取り組んでいる。」の項目で約63%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している。学校行事や部活動の縮小が影響しているのか、中間のときより回答の割合が減少している。	B	・来年度は「目標をもって学校生活や部活動に取り組む」が7割以上を達成してほしい。自己肯定感を高める指導が課題だと思います。	
○特別支援教育の充実	○教員の意識の向上	○特別支援教育の視点を取り入れた教育活動上の工夫を、各自3つ以上実践する	・特別支援に関する研修会の実施。 ・ケース会議の実施、情報共有。 ・教育活動上の工夫の例示。	A	・教職員に対し、特別支援教育の視点を取り入れた教育活動上の工夫例を提示し実践を働きかけ、学習指導要領にある障害のある生徒に対する配慮事項の確認などを行った。その結果、約95%が十分または概ね達成と回答し、授業を参観しても、あらゆる場面で配慮やUDの機能を取り入れた実践を行える教師が増えつつある。お互いに創意工夫や意見の交換を行い、延いてはどの生徒にも「わかる授業」を目指す気風が樹立できた。	A	・先生方の意識の高さに感心しました。今後もぜひ研修を重ね、充実させてほしい。	特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担当

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・12月の保護者アンケートからは、今年度も客観的におおむね良好な結果が得られた。PTAや地域からの協力や理解が大きく、生徒もそれに応えようと努力する姿が徐々に増えてきた。職員も「出番・役割・承認」のサイクルのもと、生徒指導主事を中心として、自己肯定感を高める開発的生徒指導についての研修を重ねながら、生徒の指導に一丸となって取り組んでいる。学力向上については、来年度に向け課題が残った。PDCAサイクルを機能させ、さらに学力向上についての研修を重ねる必要がある。、小中連携の研究指定を活用して「学力向上」のために小中で共通した学習規律の確立を図り、授業においては指導法の研修を深め、教師の指導力及び生徒の学力向上を図っていく。また、家庭学習については特に課題が多い。家庭学習の充実のために保護者に生徒の実態を把握してもらい、危機感を感じながら家庭の協力を得られるようにする。家庭やPTAと連携の強化を図りながら全ての職員が共通理解のもと、基本的な生活習慣を定着させるとともに生徒会の取組についてもさらに充実させていく。また道徳を中心とした心の教育にも今後さらに重点を置いて進めていく。
--------------------	--